

入所施設の敷地内における GH の設置に係るアンケート <結果>

1. アンケート対象

市内に所在する入所施設

2. 募集結果

施設数：10 内、回答数：6（回答率60%）

賛成：3 条件付き賛成：3 反対：0 その他：0

3. 意見概要

(1) 賛成理由・考え方等（回答数：3）

各施設の状況や周囲の環境が各々違うので、一概に条件を付けることは難しいと思う。障がい者にとって、（親にとって）入所施設が一番、安全と安心が確保された住まいの場である事は、遅々として地域移行が進まない現状が物語っているように思う。何故、入所施設が選択肢の最上位なのか、GH への地域移行が進行しづらいのか、自施設でよく聞かれる声は、「長く入所され、他ご利用者・職員との繋がりもあり、今のままの生活を続けたい」、「保護者（親）が高齢の為地域移行の説明を行っても理解しづらい」等である。このような声を踏まえると、敷地内に GH が容認された場合、入所施設本体に近い敷地内であれば、これまでの人間的な繋がりも切れることなく、隣接という事で、安全面が担保されている事で、保護者の了解も得やすいのではないだろうか。

ただ、敷地内 GH は、GH 事業の本来の理念からは、外れてしまうかもしれないが、地域移行を進めていくスモールステップとして、職住分離を分かりやすく行っていく意味では、有益であると考えます。

敷地内に GH を作らないという国の考えは、山の中の様な所にある入所施設では、ミニ施設になってしまい、地域生活にならないということ自体は理解できる。しかしながら、現在の新潟市における入所施設は概ね 30 分以内で市街地（繁華街）にアクセスできる土地で、また地域のコミュニティとの関係も深く築いていると思う。よって、敷地内に作っても他の GH と同じ地域生活を構築できると信じている。

入所施設の現状としては、障がいの程度、種類において色々な方が生活しており、齟齬が出ているかと思う。GH への移行によって障がい者の特徴、種類によって（重度、中度、行動障がい等々、高齢等々）の住み分けを検討したらよいかと思う。

地域移行の観点からも、GH 利用者は入所施設の利用者又は入所待機者を優先した方がよいと思う。そうすることによって本来の入所施設の一時的な滞在、期間限定の訓練施設としての位置づけを利用者の安心、安全とともに敷地内 GH は実現させようと思う。

【理由】緊急時の応援がしやすい。

【推進】GH について検討しているが、地域の障がい者（身体）のニーズがあまりないため、GH についての広報活動が必要と感じている。

(2) 条件付き賛成を選択した場合の条件等 （回答数：3 ※3つとも以下の内容）

GH が入所施設とは独立した建物であること。

GH と入所施設が塀や柵等で区切られていること。

敷地外からの入口が GH と入所施設とで別であること。

GH 利用者の家族及び地域住民との交流の機会が確保されること。

GH 利用者に対し、日中活動場所を同一敷地内の事業所とすることを強制しないこと。

4. 【賛成又は条件付き賛成と回答した施設のみ】 （回答数：6）

入所施設の敷地内 GH を認める改正がされた場合、GH の設置の意向について

設置したい。 （重複意見：3）

現在、敷地外の GH の検討をしているが、障がい者の方のニーズがあれば次は敷地内も検討していきたい。

以前から検討しており、改正されれば、GH の建設を他の事業との優先順位を充分考慮してからであるが建設を考えたい。

特に現在の入所者で希望がでている方を優先して検討したい。ただし、行政からの資金面での協力も得た上でという条件はあるが、前向きに検討していきたいと考えている。

敷地内 GH が容認された場合、現在の当施設を取り巻く状況よりは、地域移行を進める上で、移行し易い環境になると思う。

だが、現在の当施設は直近の課題として高齢化、重度化が進行するご利用者を如何に支援していくか、という課題に向き合っており、もう少し時間が欲しいのが正直な思いである。

【資料 5-2】

5. 【入所施設の敷地に隣接していない場所に GH を持つ施設のみ】 (回答数：3) 隣接していないことのメリット・デメリット・課題等について

メリットとしては、施設から離れ、地域の中にある為、社会参加、地域住民との繋がり機会が多く、ご利用者の精神的な地域移行が図りやすい環境が出来る。また、地域住民にとっても近隣に障がい者の GH があるという事で、障がい者福祉に関心をもってもらえる。(いい意味でも悪い意味でもだが、関心を持ってもらえることが、大切だと考える。)

デメリットとしては、入所施設から GH に移行される場合、保護者への説明をする際、本体と離れている為、不安を感じられることが多い。また、GH 内で世話人 1 名では対応出来ない事案が生じた際、本体と距離が離れている為、フォローに向かう職員がすぐには駆けつけられない状況にあることもあげられる。

地域に点在する単独の GH は、軽度の利用者にとっては、一人暮らしの自由と小集団で暮らすことの安心感があり、望ましいものである。施設などより地域生活のよさを満喫できる部分もあろうかと思う。しかしながら、重度の利用者を預かる GH 職員では、何より運営面で孤立感や非効率性などがある。また、勤める職員にとっても不安感がある。様々な配慮が必要な重度利用者の GH では、様々なバックアップが得られる入所施設近くのメリットが勝るかと思われる。また、特に行動障がいを持つ利用者の GH においては、地域の方とのトラブル面でも問題が出やすく、単独設営はかなり困難が予想される。単独のものを作るとすれば、複数の GH を組み合わせたもう少しパイが大きいもの(たとえば3つの GH をあわせて定員を 20 名近くにするなど)を目指した方がより良いかもしれない。

バックアップ体制の確保、緊急時の対応等を考慮する時、隣接とまではいわなくても近隣地域の方が圧倒的にメリットが大きい。

【資料 5-2】

6. 【入所施設の敷地に隣接している場所に GH を持つ施設のみ】 (回答数：2)

隣接していることのメリット・デメリット・課題等について

入所施設のバックアップ（複数の職員の兼務での支援など）が得られ、様々な配慮を得やすく、地域住民からの反対も出にくいというメリットがあるが、デメリットとしては、「入所施設との違いをどう出していくのか」ということを明確にしないと、入所施設と隣接する GH の双方の利用者から不満が出やすいように思われる。特に GH では家賃が発生することがほとんどであるので、費用的にみても入所施設に近い環境、同じ職員支援とした場合、差を説明できなければならぬと思う。また「金持ちしか GH に入居できないのか」等の不満もできる可能性があるのではないかと思う。

メリットとしては、GH 内で世話人 1 名では、対応出来ない事案が生じた際、フォローに向かう職員がすぐに駆けつけられる状況にある。そういった状況にあり、入所施設から GH に移行されたご利用者の保護者は、説明においても安心して移れるという事で、移行業務もスムーズに図れることもメリットと言える。

デメリットとしては、本体施設と隣接している為、施設の 24 時間限られた空間での生活の延長と感ずることがあり、ご利用者本人の心理的な変化が得にくいように思う。